

国際医療福祉大学

森山 良太*

I. 大学の変革と概要

国際医療福祉大学は、多彩な医療福祉専門職の育成とその地位向上を志し、1995年に開学した「日本初の医療福祉の総合大学」です(写真1)。医療福祉の高度化・専門化に対応できる高い技術と知識、優れた判断力と教養を併せ持つとともに、それぞれの専門分野において指導者となりうる人材の育成をしております。2013年4月には福岡県大川キャンパスに、臨床検査技師を育成する「医学検査学科」を開設いたしました。私立大学として九州で3番目の設置となる本学科では、生命科学の基礎知識を習熟したうえで、医療技術の進歩で高度化した検査知識・技術にも対応できる卒業即戦力となる臨床検査技師の育成をめざします。これにより、現在、栃木県大田原市、神奈川県

県小田原市、福岡県福岡市および大川市の4キャンパスに6学部16学科を持ち、大学院まで含めると約6,700人の学生が学ぶ大学となりました。

本学の建学の精神である「共に生きる社会」の実現は、生涯をとおして人権擁護に尽力されてこられた初代学長・大谷藤郎先生によって提唱され、1995年の開学以来、一貫して掲げてきた理念です。この建学の精神のもと、本学の医療福祉教育は各専門職間の隔壁を外し、医療専門職と福祉専門職の先導者をめざす学生が同じキャンパスでともに学ぶことを重視してまいりました。

II. 本学の教育目標および特長

国際医療福祉大学は、病気や障害を持つ人も健全な人も、お互いを認め合い、尊重し合う「共に生きる社会」の実現を建学の精神とし、「人間中心の大学」「社会に開かれた大学」「国際性を目指した大学」という3つの基本理念と7つの教育理念を掲げ、これらの理念のもと、優れた人間性を兼ね備え、「チーム医療・チームケア」に貢献できる専門性の高い人材教育を行っております。

【7つの教育理念】

- 「人格形成」
- 「専門性」
- 「学際性」
- 「新しい大学運営」
- 「情報科学技術」
- 「国際性」



写真1 国際医療福祉大学 大川キャンパス

*福岡保健医療学部医学検査学科 kensa-staff@iuhw.ac.jp

「自由な発想」

本学の特長として、附属・関連施設の充実と、各分野における第一人者による教育があげられます。栃木県の国際医療福祉大学病院、国際医療福祉大学塩谷病院、東京都の国際医療福祉大学三田病院、静岡県の国際医療福祉大学熱海病院という4つの附属病院のほか、「臨床医学研究センター」という位置づけの、関連医療福祉施設を多数保有しておりますので、実習面においても非常に恵まれた環境が整っています。教育陣についても、学部長・学科長をはじめ、各分野の第一人者が実際に学生の教育にあたっているほか、附属病院および関連施設においても、さまざまな分野で著名な医師や専門スタッフが一丸となって、学生の臨地実習にあたっております。

III. 福岡保健医療学部について

2005年(平成17年)、理学療法士、作業療法士を養成する県内初の4年制学部として、福岡県大川市に設立いたしました。また、2007年(平成19年)に言語聴覚学科を新たに開設したことにより、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を同時に養成する大学としては福岡県で唯一の存在となりました。さらに2013年(平成25年)4月、臨床検査技師を養成する医学検査学科を新設し、福岡保健医療学部と学部名称を変更いたしました(写真2)。医学検査学科棟も新設され、ここでも各分野の第一人者を迎えた教授陣、多彩なカリキュラム、最新の設備など、教育環境がますます充実いたしま



写真2 福岡保健医療学部

した。臨床医学センターとして指定されている高木病院、柳川リハビリテーション病院など、近隣に位置するグループ関連施設と連携を取りながら、人間性、社会性、国際性を兼ね備えた、西日本の保健医療を担うことのできる優秀な人材の養成を行っています。

IV. 医学検査学科における教育内容

本学の医学検査学科では、新しい時代に通用する臨床検査技師の育成を目的に、① 遺伝子検査教育の充実、② 生理検査教育の充実、③ 国際人育成教育の充実を教育の大きな柱としています。

1. 遺伝子検査教育の充実

遺伝子検査は、病気の種類の決定やがんなどの悪性度を推定する貴重な情報となり、この情報をもとに、その人に最も適した治療法(分子標的治療など)が実施され、さらに、将来、病気やがんになる可能性についての推測もできる時代を迎えています。しかしながら、この分野に特化した臨床検査技師を養成できる教育機関が本邦には、ほとんどないのが現状です。本学三田病院・病理診断センター(センター長:長村義之教授)では、専属の複数の臨床検査技師が、がんの分子標的治療の検査として、患者さんごとに薬効が期待できる薬剤選択のための遺伝子解析を日常業務として行っています。最終判断は病理医が行いますが、その遺伝子解析および予備判定は臨床検査技師が行い、患者さんの具体的な治療にも重要な任務を担っています。今後、その重要性はさらに増すことが予測され、本学・三田病院や系列病院と連携した教育の実践から、遺伝子診断・治療に貢献できる新しい時代に通用する臨床検査技師の育成を目指しています。

2. 生理検査教育の充実

生理検査の教育では、測定技術を習得することに加え、検査結果を正しく判読できる能力、患者さんに対する接遇や医師、看護師などの他職種職員との連携(チーム医療)を学ぶことが非常に重要になります。また、生理検査装置は即時に患者さんの状態を把握できることから、臨床検査技師の検査結果判読能力が患者さんの救命に直接かかわ

ることも度々あります。生理検査教育は、医療現場での実学が非常に重要であり、現場経験豊富な教員による学内実習に加え、本学が持つ豊富な関連病院での実習に重点を置いた教育を行うことにより、資質の高い臨床検査技師の育成を行います。

3. 国際人育成教育の充実

臨床検査の分野では、日本の技術は世界のトップクラスにあります。日本で開発された医療機器や測定技術が全世界で利用されています。我が国の臨床検査技師には、国際学会で研究成果を発表し医療の進歩に貢献することや、発展途上国への学術指導など、大きな使命と期待が寄せられています。本学の理念である、人間性豊かでバランスのとれた人格形成を図り、異文化への理解力と語学教育の充実、さらには、必修科目である2年次の海外研修などを通し、国際的に活躍できる人材の育成を行います。

このように、本学・医学検査学科は隣接する高木病院をはじめ豊富なグループ関連病院や附属病院と連携し、海外研修の必修化など、他大学には類をみない恵まれた環境の中で、実践力を養い、「チーム医療・チームケア」を実体験できることが、本学に既設の他学科同様、医学検査学科においても大きな特徴になっています。

V. 本学が果たす役割

本学は、医療福祉の多様な専門職を育成する総合大学として、4つの附属病院をはじめとする多数の臨床教育施設と、わが国のリーダーとして第一線で活躍している優れた教育スタッフにより、恵まれた教育環境で、将来のメディカルスタッフをめざす学生を教育しています。そして今日までの14,000人以上の卒業生たちは、医療福祉の高度化・専門化に対応しながら、修得した高い技術と知識、そして豊かな教養を備え、時代の変遷の先頭に立って全国で活躍し、社会的重責を果たしております。ますます進展する超高齢社会では、さらなる大きな役割を果たすものと確信しています。

近い将来、本学で学ぼうとされている学生の皆様にとりましては、本学の充実した教育環境を存分に活用され、勉学に励むとともに、スポーツやボランティア活動を介し人間形成に精進し、医療福祉のリーダーをめざされることを教職員一同願ってやみません。そして現在、われわれが推進している「チーム医療・チームケア」に積極的に参加され、患者・利用者の皆様が心から安心・安全と思われるよう医療福祉に貢献されることを期待しております。